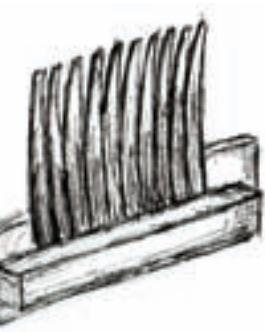


## 収穫今昔

実りの秋、稻穂が重たさうに頭をたれている。

昭和初期の頃、脱穀は穂先をスッコキにはさんで力まかせに引っぱる、糲を取り離したんやさ。手間暇かけた力のいる仕事やつた。しばらくして足踏み式の脱穀機が普及し作業がはかどるようになつたんやがいぐらもせんうちに箱型に姿をかえた脱穀機に発動機をつけ加え、エンジンがかかるまで手でまわす。エンジンがまわりだすと油のにあいがきつかつたわな。糲が押し出されるようになってくる口元には、手づなのついたびくにかわつて南京袋が使われるようになつた。



刈り取った稻を稻架にかけたり、運び込んだ糲を筵の上で天日干ししたりして乾かしたんやさ。

牛や馬の力を借りて耕したたんぽは耕耘機にかわり、稻刈り鎌はコンバインになつた。田植えも田植え機が活躍しすべて手作業だつた農家の仕事は機械化された。

田んぼに大きな機械が入るとあつと云ひ間に刈り込み通り過ぎた後は細かく刻まれた糲が広がつていた。

糲を切つた押し切りや家の前にいっぴ広げた筵のオンパレードはもう見ることはない。

※スッコキ・・・インターネットで調べました。

協力者

区長 末松 勝美さん (73歳)

岩田 豊さん (84歳) 堀 進さん (享年78歳)  
坂 孝男さん (83歳) 助言を下さつた方 (74歳)

歴史の息吹を感じてみませんか



## 山内一豊ゆかりの牧村城址

## 牧村城

十六世紀の戦国時代、当地に小城があり、牧村牛之助政信（書道家）の家臣「が居城していました」のちに政信は「牧村兵部利貞」（利休七哲の一人）を継嗣にしました。城址は「古跡跡に、「一村南にあり」とされており、この付近は根津河されます。

## 一豊のかかわり

土佐守祖となつた山内一豊は、十五歳の時（永禄三年／一五六〇）

城主牧村政信の元に身を寄せました。

一豊は、守護代吉宗義田家の家老山内義豊の子として生まれました。

永禄二年、徳川信長に攻められ、吉宗城は落城し、父と兄は討ち死にしました。一豊は逃走の隠跡の時、当地に安宿しました。

## 出世の足がかり

一豊は、故源永に見られた時、水色の帷子絞りで馬に乗って

駕籠するなどの武財をたてました。また、地道で誠実な人柄を高くわれ、秀吉の家来になりました。その後、幾千代の内勤の功もあり、土佐

二十四万石の大名にまで出世しました。その後、毛利氏の功もあり、土佐

枝村城は「若き一豊が活動の中を通じ、政治や西美濃の諸武将から貴重な人生を生き抜く才知を学び、出世の足がかりになるところでありました。



## ちょっと寄り道『安八町』

～山内一豊ゆかりの地・牧村城跡（安八町牧地内）

◆円長寺  
安八町牧1386 (☎ 64-2442)